

“Noism”の公演活動へのご支援について

日本で唯一の「公共劇場専属舞踊団」、“Noism”(ノイズム)は皆様の力に支えられ14年間活動を継続してきましたが、『100年後のその先まで続く文化』を創造するには、今後とも長期にわたって皆様のご支援・ご協力が必要です。

公演のチケットを買っていただくこと、観にきていただくこと、ただただ無心に鑑賞していただくこと。

これは明確な支援につながります。

なぜなら、より豊かで成熟した『劇場文化』をこの地に根付かせることこそがこの事業の目的であるからです。

また、より長期的な視点で物品・資金・場所や機会提供、広報協力という形でご支援いただくこと。

これも、大きな支えとなります。というのも、それは単純な物の支給にとどまらず、

その方がこの事業を「自らに関わる事」として受け容れ、参加してくださっていることを示すからです。

文化を自らの手によって育てようという感性豊かな市民がいてこそ、創造性豊かな街、地域が生まれます。

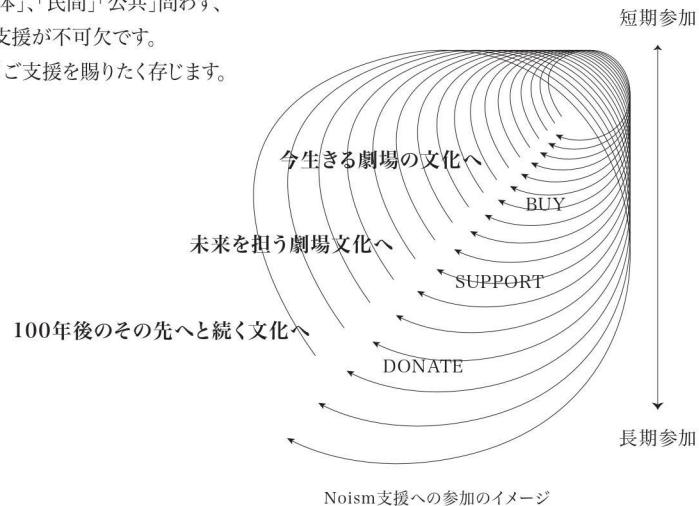
“Noism”的設立当時、新潟市は首都圏や海外で創られた作品を招聘する為に使っていた文化予算を、世界に通じる才能を新潟に定住させ、『新潟に住もう舞踊団』が世界に創造発信するという使い方に切り替えました。文化を外から借りてくることから、自ら経験を積みながら『育てる』ことに大きく舵を切ったのです。

そのための文化拠点が『劇場』です。

“Noism”はそうした公共性を担い、100年後の文化を創造することを見据えています。

その理念の達成の為には、「個人」「団体」「民間」「公共」問わず、長期にわたる、様々な方のご理解とご支援が不可欠です。

理念に賛同していただける方から、広くご支援を賜りたく存じます。



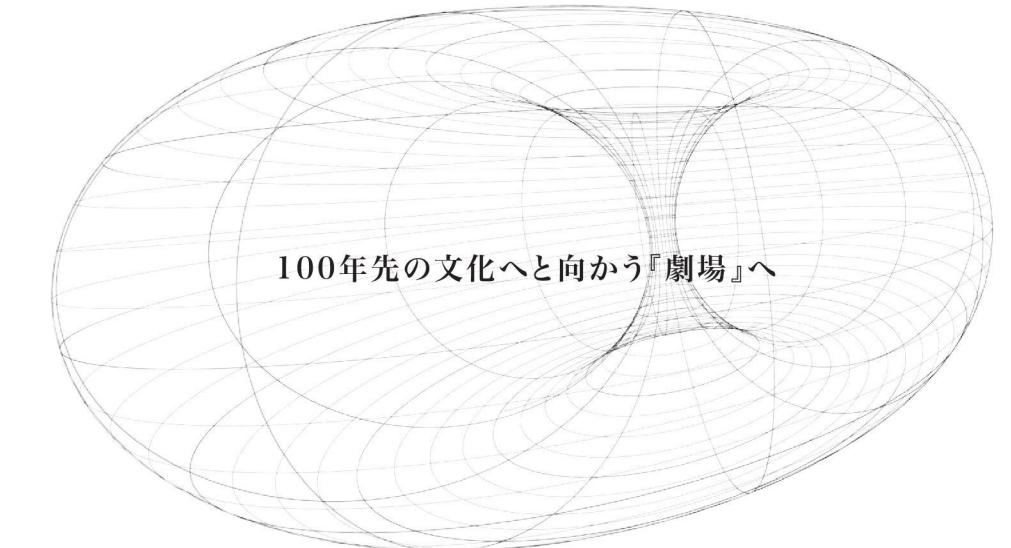
お問合せ・お申込み

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業企画部 舞踊企画課 Noism活動支援担当

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel: 025-224-7000(平日10:00~18:00 休館日を除く) Fax: 025-224-5626



- 21世紀において、100年継続する文化を創造すること

* あなたはあるインタビューの中で『劇場文化』を100年の視点に立って創造するという構想を持つていていることを明言しています。どうやってその構想を実現するのですか？道筋はあるのでしょうか？

人がその人の人生、あるいは仕事においてある種の影響力を持つた社会参画をする期間を30～40年程度として考えた場合、100年とはおよそ三世代を意味しています。ですから私は自らが立ち上げた劇場専属舞踊団という構想が、三世代にわたって継承されることを望んでいます。

なぜならこの国に劇場専属舞踊団を根付かせること、劇場という施設が舞台芸術の専門家たちによって運営され、劇場が単なる上演施設ではなく、芸術創造及び発信のための施設であるということをこの国に根付かせるためには、20世紀的な一人の天才による革新ではなく、その理念及び情熱が文化政策として継承されてゆくことが必要であると考えているからです。

そしてバレエや現代舞踊といった芸術が日本に入ってきたのが、今からおよそ100年前であることも関係しています。21世紀を生きる私たちは、あらゆる意味において100年先を見据えるために、100年前を見つめ直す必要があると考えています。

- 複雑な時代を複雑なままに表現すること

* あなたの語る『劇場』の構想にはいわゆる舞踊(ダンス)専門劇場が含まれているのでしょうか？

60年代以降世界各地の演劇の革新者たちは、独自の演出法はもちろんのこと、総じて独自の身体論によって既存の演劇を革新してきました。一方舞踊は、20世紀後半のコンテンポラリーダンスに顕著なように、専門性を芸術的革新の名の下に棄て去り、その表現は非身体化していきました。

ですから21世紀における舞踊芸術の専門性を、改めてその身体性に求める私にとって、60年代の演劇から学ぶことは非常に多く、創作活動においてもその影響を受けることは必然なのです。そして私は21世紀の舞台芸術において、その表現形態が演劇であるか舞踊であるかということは、もはや問題ではなくなると考えています。

そこで問われるのは、情報技術の飛躍的進歩によって可視化されるものが全てであるような、複雑な事象を短絡化して1か0かに還元するような社会に、この身体を用いて不可視なもの、複雑な事象を複雑なままに、いかに高い質で表現することが出来るかであると考えています。

- 自らの文化として経験を積むこと

* 現代の舞踊のことを考えたとき、アジアとヨーロッパでの重要な観点の違いは何だと考えますか？

アジアにおいてバレエやモダンダンスは外来の文化です。外来の文化が往々にしてそうであるように、ヨーロッパ(その成熟の舵は一度アメリカに渡りましたが)が歴史の積み重ねによって見出してきたものを、アジアは国によってその時期こそ違えども、断片的に受容してきたわけです。そしてそこで起ったのが成熟錯誤の問題です。

アジアのダンスシーンにおける問題は、成熟するだけの時間も経験も積んでいないのに、コンテンポラリーという理念だけが輸入されたことだと私は考えています。高い技術を持った舞踊家がその技術を新たな表現のために捨て去ることと、技術も経験もないものが技術を無価値なものとみなすことには大きな違いがあります。

アジアのダンスシーンの課題は、よく言われるような自国の民族舞踊を取り入れるといった民族主義的洞察ではなく、自国の文化としての経験をしっかりと積むことです。そのことによって自国の民族舞踊に対する洞察は、必然的に生まれるのではないかでしょうか。

